2026年度日本木材学会中部支部大会（福井）実施報告書

福井県総合グリーンセンター　灰谷嘉康、東　正樹、野村　崇、小泉　扶

2026年10月1〜2日、福井県福井市において、2026年度日本木材学会中部支部大会が開催されました。本大会は第36回を迎え、中部地域を中心とした大学・研究機関・企業に所属する木材研究者，技術者および学生が参加し，研究発表および意見交換が行われました。参加者は計52名で，そのうち学生は15名でした。

初日は、福井市地域交流プラザ（AOSSA　6F）において12時から評議員会が開催され、その後にオープニングセレモニー、研究・技術発表会が行われました。13 時5分からのオープニングセレモニーでは、当学会中部支部長の静岡大学・河合教授、大会実行委員長の灰谷から挨拶を行った後、ご来賓として日本木材学会会長の東京大学・恒次教授から祝辞をいただきました。13時15分から口頭発表が実施され、途中にポスター発表の時間が設けられた後に再び口頭発表が行われ、クロージングセレモニーをもって1日目のプログラムが終了しました。口頭発表は11件、ポスター発表は10件、合計21件の研究発表が行われました。発表内容は、化学系、生物系、物理系、力学系、土木工学系など多岐にわたり、幅広い分野の研究成果が報告されました。

クロージングセレモニーでは、河合支部長から大会の講評をいただき、次期開催県である愛知県を代表して、名古屋大学・土川教授からご挨拶いただきました。その後、今回の優秀発表賞２名の授与式を行い、賞状と副賞が河合支部長から手渡され、受賞者から喜びのスピーチをいただきました。

続く懇親会は、18 時からウェルアオッサ（AOSSA　3F）で開催されました。参加者は30名で、そのうち学生は7名でした。恒次木材学会会長の乾杯で開会しました。立食形式で実施され、研究内容に関する意見交換や、木材・森林に関する技術情報、研究・教育活動に関する情報交換などが行われました。

２日目の見学会は、9時30分から11時30分まで福井市の県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館を訪れました。参加者は15名（うち学生2名）でした。一乗谷朝倉氏遺跡博物館のガイドから、博物館の県産材による木質化と遺跡の概要について説明いただいた後、展示されている遺構や出土品、朝倉当主の一部原寸で再現された館などを、参加者は熱心に見学されていました。

当日は、発表のスケジュールがタイトとなっており、進行にあたっては司会および発表者の皆様に多大なるご迷惑をおかけしましたこと、心からお詫び申し上げます。至らぬ点も多々あったかと思いますが、大きなトラブルなく無事に大会を終えることができたと思っております。大会にご参加いただいた皆様、ご協力いただいた一乗谷朝倉氏遺跡博物館の関係各位に厚く御礼申し上げます。

【地域功労賞】

・該当なし

【優秀口頭発表賞】

・A10　吉村真菜氏（岐阜大院自技）

「新規加水分解性タンニンの構造解析とタンパク質との相互作用様式の解」

【優秀ポスター発表賞】

・P01　山下夏未氏（三重大生資）

「クラフトリグニンの水溶化に及ぼす弱酸性官能基の塩型率の影響」



口頭発表会場の様子



ポスター発表会場の様子



優秀口頭発表賞受賞者



優秀ポスター発表賞受賞者



懇親会の様子



見学会の様子